お酒を醸す神社仏閣 44+α のリスト

2021年7月資料作成

このリストはできるだけ網羅的に情報を集めて作成したものですが、誤りがあるかもしれません（末尾の注記参照）。 誤りやお気づきの点がありましたら、当社にご連絡ください。

	酒造免許を持つ神社 (44)											寺・教会の酒造（+α）	（参考）かつての僧坊酒	
	清酒免許＝4	その他の雑酒の免許＝40	住所は、同名神社がたくさんあるなど、神社名だけでは同定しにくい場合のみ記載 免許取得年：※＝明治29年　※※＝明治30年　それ以外は取得年を記載　（明治29･30年が多いのはこの年にお神酒と言えども酒税法の範疇になると定められたからで、各神社でははるか以前から連綿と酒造を行っていた場合がほとんど） **太字に下線**：一般の人が参加して、醸されたお酒を飲むチャンスもある「どぶろく祭り」がある神社で、その月日も記載											
北海道														
青森														
岩手														
秋田														
宮城														
山形														
福島		**国魂（くにたま）神社：※※　10月第二日曜**	春日神社（福島市黒岩）：※※	田出宇賀神社：※※	三島神社（喜多方市）：※※	稲荷神社（喜多方市慶徳町）：※※	蚕養国（こがいくに）神社：※※	小平潟天満宮：※※	鹿島神社（福島市）：※※	益多嶺神社：明治32年免許取得	日祭神社：※※			
新潟														
長野		**御座石（ございし）神社：大正14年免許取得　4月27日**												
茨城		**春日神社（行方市青沼）：※※　11月23日**												
千葉	莫越山（なこしやま）神社：昭和15年免許取得													
埼玉														
栃木														
東京														
神奈川														
山梨														
群馬														
静岡		白山神社（磐田市）：※	小國神社：明治39年	一幡神社：昭和12年	杉桙別命（すぎほこわけのみこと）神社（川津来宮神社）：明治19年（？）									

岐阜		★ **白川八幡宮神社（白川村荻町 ー 合掌造り集落内）：※ 10月14･15日**	**八幡神社（白川村鳩谷 ー ホワイトロード入口交差点）：※ 10月16･17日**	**八幡神社（白川村飯島 ー 道の駅白川郷正面）：※ 10月18-19日**	**八幡神社（白川村平瀬 ー 平瀬温泉）：※ 9月25-26日** （元々、酒造免許は馬狩八幡（白川村馬狩）が持っていたが、平成2年に平瀬八幡と合併したので酒造も平瀬八幡に移行）	**八幡神社（白川村木谷 ー 白弓スキー場近く）：※ 10月10日**	明建神社：※	飛騨一宮水無神社：昭和7年免許取得				（カトリック神言修道会・多治見修道院） 1930年設立、1933年免許取得 日本唯一のミサのためのワイン製造免許で修道院地下で86年間にわたりワイン醸造を行ったが、関連の社会福祉法人「AJU自立の家・小牧ワイナリー」へワイン製造委託に伴い、2019年に返納		
愛知		**長草天神社：※ 2月下旬**	若宮八幡社（豊橋市船渡町）：明治39年	八幡社（豊橋市大崎町）：※※	八幡社（豊橋市野依町）：※※	熊野神社（岡崎市蔵次町）：大正4年免許取得								
三重	★ 伊勢神宮：明治33年免許取得	**大森神社：※※ 11月23日**												
富山														
石川		能登部（のとべ）神社：※	能登比咩（のとひめ）神社：※	天日陰比咩（あまのひかげひめ）神社：※										
福井		宇波西（うばにし）神社：※※											豊原（ほうげん）寺（「豊原酒」）	
滋賀		**野上神社（日吉神社境内ー栗東市上砥山）：※※ 5月末**											★ 百済（ひゃくさい）寺（「百済寺樽」）	
奈良		★ 春日大社：※	★ 大神（おおみわ）神社：※									★ **正暦寺・1999年から、毎年1月に境内にて税務署立ち合いで菩提酛の酒母の仕込みを行う（酒母は県下のいくつかの蔵元に配られ、以降の酒造は民間で行い、各社の市販酒となる）**	正暦寺など（「南都諸白」） ←と同じ	
京都														
大阪		善根寺春日神社:昭和26年免許取得											★ 金剛寺（「天野酒」）	観心寺（「観心寺酒」）

和歌山													
兵庫													
岡山													
広島													
鳥取													
島根	★ 出雲大社：明治30年免許取得	★ 佐香（さか）神社（松尾神社）：※ 10月13日											
山口	岡崎八幡宮：明治32年免許取得												
香川		宇賀神社：明治33年免許取得											
徳島													
愛媛													
高知													
福岡													
佐賀													
長崎													
大分		★ 白髭田原神社：※※ 10月17-18日											
熊本													
宮崎													
鹿児島													
沖縄													
	4										40		

ご注意：どの神社がお神酒を内製しているのか、何社の神社が酒造免許を持つのか、全国的にまとめられた公開情報がないと思われるので、本資料を作成した。税務署でも「その他の雑酒」免許を個別に分けていないようで全国的な統計が存在しないようだ。
この資料は、加藤百一「3.神酒造りの伝承」（醸造協会誌1978年11月）、加藤百一「酒造り神事」（酒史研究1985年4月）に掲載された情報（大変古いが、私が知る範囲で唯一の全国的な情報）を元に、直近のネット情報や筆者の知見でアップデートして一覧にしたもの。
「どぶろく祭り」などで、一般に公開されている場合は酒造していることを把握しやすいが、神事のためだけに内部で造酒しているものは詳細を公開していない場合が多く、現在も神酒づくりを継続しているか確認しづらい。加藤百一資料にあっても、近年になってお神酒の造酒をやめて、近隣の酒造家に委託している神社もあると思われるが確認できない。したがってこのリストは正確でないかもしれない。

★「神社仏閣のお酒」の写真資料 → https://kitasangyo.com/pdf/archive/sake-info/Sake_Shrine.pdf

kitasangyo.com

(end of paper 210730/tk)

（追加資料）

近世まで醸していた神社＋お神酒を供給する蔵元

2021年8月資料作成

資料は正確を期して製作したものですが、誤りやお気づきの点がありましたら、当社にご連絡ください。

「しとぎ（粢）からお神酒（おみき）を造っていた」神社

明治29-30年以降、お神酒といえども酒造免許が必要になったので、多くの神社がお神酒づくりをやめた。しかしその後も、あまり公にはせずにお神酒内製を継続した神社もあった。麹を使ったもののほか、昭和期でも口噛み酒が多くあったようだ。アルコール分が低いうえ、お供え用だったので、黙認されたのかもしれないと思う。当然、そのような神社のリストは存在しない。しかし、偶々、しとぎ（粢）からお神酒を造っていた神社を調査された資料（出典は末尾記載）があるので、ここではそれを引用する。

しとぎ（粢）＝白米を水に浸し、臼（うす）で挽（ひ）いて（湿式粉砕という）、米粉にして固めたもの。外観はお餅のよう。古代からが神のお供えする神饌（しんせん、神へのお供え）として用いられた。

SH：しとぎ（粢）からお神酒を造っていたという伝承があるが詳細は不明
SK：しとぎ（粢）からお神酒を造っていた　口噛みだった
SI：しとぎ（粢）を稲わらにくるんで稲由来の麹菌を生やし、蒸米や餅に混ぜてお神酒をつくった

北海道	-----	＜このセルは「しとぎ」ではない＞ **「紋別アイヌの口噛み酒」**は、「琉球の口噛み酒」（表の末尾参照）と共通点があると言われる（どちらも黒潮文化圏）。これはアイヌ民族の神事のお酒で、ここで主題としている日本の神社のお神酒とは意味合いが違うが、網羅的資料とするためここに掲載しておく。迫害を受けながらも、アイヌの神事の酒造は大正・昭和まで存在したと思われる。	
青森			
岩手			
秋田	**大平山三吉神社**	**SK 男子青年による口噛み酒をつくっていた　醗酵桶に添える魔よけの刀をGHQに接収されたのでやめた（すなわち、戦後まで続いていた。なお、男子の口噛みは珍しい）**	
宮城			
山形	**金山神社（西川町）**	**SH**	
福島	**伊須佐美神社**	**SH**	
新潟			

有名神社のお神酒を供給する蔵元について

実際に訪問した神社の記録。兵庫県在住者なので、記録が西日本中心となっています。
記述内容は筆者による。

★＝「神社仏閣のお酒」の写真資料（↓）に登場する神社
https://kitasangyo.com/pdf/archive/sake-info/Sake_Shrine.pdf

鹽竈（しおがま）神社	**「阿部勘酒造」（宮城）** 阿部勘酒造は鹽竈神社（塩竈あるいは塩釜とも）の門前に、お神酒をつくる蔵として1716年創業。以来300年以上鹽竈神社のお神酒をつくる。なお鹽竈神社は**「一ノ蔵」（宮城）と「佐浦・浦霞」（宮城）**もお神酒としているそう。（人が亡くなったときなど、長年では避けられない「けがれ」の時の備えだそう）	
★ **弥彦神社**	**「宝山酒造」（新潟）** 当社は新潟の得意先が多いので、たびたびお参りする。社務所で売られる一合のお神酒は、当社の壜。	

長野							
茨城	素鷲（そが）神社 SH						
千葉							
埼玉							
栃木							
東京				小網神社（どぶろく祭り）	「藤居本家」（滋賀） 当社の東京支店から至近、日本橋小網町にある都心の小さな神社だが、どぶろく祭りで有名。いわれは知らないが、地元ではなく滋賀のお酒を使う。	★ 明治神宮	「豊島屋・金婚」（東京） 豊島屋は東京で最も操業が古い蔵元。神田明神のお神酒もつくる。
神奈川							
山梨							
群馬							
静岡							
岐阜							
愛知							
三重				★ 伊勢神宮	「白鷹」（兵庫） 伊勢神宮では、白酒(しろき)、黒酒(くろき)、醴酒(れいしゅ)、清酒(せいしゅ)の四種がお神酒と使われる。醴酒と清酒は365日・朝夕2回お供えし、白酒と黒酒は重要な行事で使うそうだ。白酒、黒酒、醴酒の三つは境内で醸造される。 別リストの通り伊勢神宮では清酒製造免許も持っているが、白酒、黒酒が「濾（こ）す」という行為を伴うため酒造免許上は清酒扱いとなるためで、いわゆる清酒は自醸していない。 実際の清酒は外部調達で、1924年から灘の「白鷹」で、参拝者に販売されるお神酒も「白鷹」である。		
富山							
石川	稲荷神社（いくつかある稲荷のうち、どこなのか不明） SK						
福井							
滋賀							
奈良	大将軍神社 米粉と酒で練る	高天彦神社 SH	浄見原（きよみがはら）神社（吉野町南国栖） SK 今はしとぎに清酒と砂糖を加え醴酒とする	★ 春日大社	「奈良豊澤酒造」（奈良） 別リストの通り春日大社は酒造免許を持っている。境内に「酒殿（さかどの）」があり、千年以上にわたって連綿とお神酒を醸造している。酒殿は、40年ぶりの大規模補修や屋根の葺き替えが2012年に終了し新しく見えるが、現建物は1632年造替という古さで、「現存する最古の酒造所」とする資料もある。 お神酒の酒造は、明治以前は神官が行い、明治以降は酒造業者に委託して行われている。現在は奈良豊澤酒造に委託されていて、春日大社が支給する米を使って白酒を醸造している。 その奈良豊澤酒造が、参拝客向けのお神酒も作る。	★ 大神（おおみわ）神社	「今西酒造・三諸杉」（奈良） 「志るしの杉玉」で有名な大神神社。別リストの通り、大神神社自体も酒造免許を持っていてお神酒の濁酒をつくるが、清酒のお神酒は今西酒造のもの。 大神神社の参道に今西酒造（1660年創業）の店がある。お酒をつくる本店も徒歩5分ほどと至近。「宮城・塩竈神社と阿部勘酒造店」、「香川・金刀比羅宮と西野金陵」と同じ関係。「奈良・橿原神宮と喜多酒造」も同じだろう。 ただ、今西酒造は創業がとても古いだけに、「一番歴史の長い神社-蔵元関係」ではないか。 余談ながら、フェノロサが絶賛したことで有名な聖林寺の十一面観音は、神仏分離前は大神神社の神宮寺の大輪寺（現在は廃寺）の本尊だった。寛保二年（1742年）、今西酒造の当主は十一面観音の天蓋を寄贈したそうだ。

京都	上賀茂神社（加茂別雷（かもわけいかづち）神社）　＜このセルは「しとぎ」ではない＞　大正時代、境内に醸造所が設けられ、大嘗祭（天皇即位後はじめての新嘗祭）の酒造を行った。東京から加島十兵衛―宮中御用酒をつくっていた浅草の加島屋―が呼ばれて醸造に当たり、白酒・黒酒をつくり、京都御所に収めた。（出典：「神様が宿る御神酒」大浦春堂著、神宮館、2017年7月初版）		
大阪			
和歌山			
兵庫			
岡山			
広島			
鳥取			
島根	横田神社　SI	鎌倉神社　湯立の後、酒造り	
山口	出雲神社（山口市徳地堀）　SI その後、米粉と米麹	八城神社　SH	
香川			
徳島			
愛媛			
高知			
福岡	嘯吹八幡（うそぶきはちまん）神社　SK	天野天満宮　SH	玉垂神社（みやま市瀬高町）　SI 明治には甘酒麹で濁酒を造った

★ 伏見稲荷	**「松竹梅」（京都）ほか** 伏見稲荷は、何年も続けて「外国人がが選ぶ観光スポット、日本1位」となっている、日本有数の観光地でもある。稲荷大社の下賜品のお神酒は松竹梅だが、稲荷山の各所で販売されるお神酒は、**月桂冠（京都）、キンシ正宗（京都）、山本本家（京都）、沢の鶴（兵庫）**など数銘柄ある。 稲荷山で売られる量を含めると、おそらく、「お神酒がもっとも売れる神社、全国1位」であると思う。	
★ 住吉大社	**「樽平酒造」（山形）のお神酒銘柄「住吉」** 東京の小網神社の事例と同じく、地元ではなく遠方、山形の酒をお神酒とする。いわれは知らない。	
★ 西宮戎（えびす、ゑびす）神社	**「えべっさんの酒」** いわゆる、お神酒とは若干性格が違うが、「十日えびす」などで販売される。灘・西宮郷の蔵元数社が共通の表ラベルで作るお酒で、近年の例では、**扇正宗、灘一、大関、灘自慢、喜一、白鹿、金鷹、白鷹、島美人**。買う時はどの蔵の製品かはわからない。裏ラベルを見て初めて製造者がわかる。 西宮戎は灘五郷の蔵元や大阪神戸の商売人の信心がとても厚い。私も、子供のころは親に連れられ、大人になってからは自分で、この50年ほど毎年欠かさず1月10日の「十日えびす」に参詣し、「商売繁盛の笹」をもらっていたが、2021年はコロナで初めてお参りできなかった。	
★ 出雲大社	**「旭日酒造」（島根）のお神酒銘柄「八千矛」** 大社内の御供所で造られる清酒は祭神である大國主大神のみに供え、その他の神々には「八千矛（やちほこ＝大國主の別名）」という清酒を供える。「八千矛」は出雲大社至近の古川酒造の銘柄。古川酒造の先祖は出雲大社で造酒司（さけのつかさ）。天保年間（1831年～1845年）に酒造業に転じたが、お神酒造りを続けた。古川酒造の廃業に伴い、2013年から、同じく出雲にある旭日酒造が「八千矛」の銘柄を引き継ぐ。参拝者へのお神酒としても販売。	
金刀比羅宮	**「西野金陵」（香川）** 階段の手前の参道に西野金陵の酒造の本店がある。琴平の門前での酒造開始が1789年。以来200年以上、金刀比羅宮のお神酒を作り続ける。	
太宰府天満宮	**「ニッカウヰスキー門司工場」の「お神酒・梅酒」** 菅原道真が梅を愛したという伝説にちなんで、梅酒。境内の梅の木からとった梅の実で仕込むそう	

佐賀					
長崎	竈神社	SH	今山神社（松浦市福島町）	SI 大正末期まで継続、その後は市販の米麹を利用	山之神社 SH
大分					
熊本					
宮崎					
鹿児島	稲荷神社（いくつかある稲荷のうち、どこなのか不明）	SH	大年神社	SH	日枝神社 SH
沖縄	-----	＜このセルは「しとぎ」ではない＞　沖縄、石垣、与那国、奄美（奄美は鹿児島ではあるが）などの御嶽（うたき）で、未婚女性による**口噛み酒のほか、大麦を用いたもの・麹を用いたもの・甘藷由来など様々なお神酒が大正・昭和まで存在した。**口噛みのお神酒は「神御気（かみき）」ともいわれた。これらは、日本と言うより、琉球の文化と言うべきだろう。 奄美には今も「みき」という紙パック入り米飲料がつくられる。ノンアルコールだが、かつては口噛みだった。お神酒（みき）に通じる。			

このリストは「新版・日本酒の起源」上田誠之助　八坂書房　2020年1月初版（オリジナルは1999年刊）による。上田誠之助（故人）：九州大学・応用微生物学の教授で、「しとぎ（粢）」がお神酒や日本酒の起源の一つである、と主張され、口噛み酒についても様々な研究をされた。

「日本酒の発祥はしとぎ」とは、「ビールの発祥はパン」（古代エジプト）といわれることと好対象をなすのではないかと思う。

平成になって神社本庁が、全国の神社8万社に神饌の種類を調査、そのなかで「しとぎ」を今も神饌としている神社765社に上田氏がアンケートを送り、「しとぎからお神酒をつくってい伝承がある」との回答を得た約20社が上のリスト。何社かは実地調査され、お神酒の作り方を調べられた。お神酒を作っていた時期の記載はないが、明治・大正・昭和のはなしである。

（注）この色のセルの記述は、上田誠之助の著作からの引用ではない。

kitasangyo.com

(end of paper 210810-18/2neo)